

会員投稿欄

今号のテーマ…わが家の新年

A 班 佐々木直子

32年前の1月1日、我が家に2人目が生まれました。以来、年の初めは次女の誕生も一緒に祝うのが我が家の恒例になりました。

元旦は家族でお屠蘇とお雑煮をいただき、午後から実家に。母が亡くなってからは弟の家になりましたが、年に一度一族皆が集まります。

今年も元日生まれの娘が可愛い孫を連れてきてくれました。大勢の大人に驚きながら、親族の一員として一歳の孫も加わります。

テーブルには御節とともに大きなバースデケーキ。いつまで一緒に祝えるかはわかりませんが、我が家の幸せなイベントになっています。



B 班 中山正夫

ぼんやりとそのときしたいことをするのが私の本音だから、正月のようにいろいろ為すべきことが順序良く定まっている行事というものが私にはいささか不得手である。

決まり切った御節料理に手を付け、お屠蘇を舐め、お雑煮を食べはするけれども、いつだって正月は面倒臭いものだどこかで思っているのだ。



それでも正月を迎えるに際し、毎年自ら欠かさずを為す

ことがひとつだけある。新年の朝、目覚めたら東向きの寝室の窓を開け、麓の続く丘の向こうに登る初日の出を遥拝することだ。ただ清々しい気分を胸いっぱい吸い込み、心をリセットするに過ぎないのだが、晴天なら、このときばかりは迎春の喜びに浸ることができるように思っている。

C 班 原 信子

わが家の新年の食べ物についてご紹介します。わが家の新年は「酒」と「鮭」で始まります。特に鮭の町で有名な村上三面川の「塩引鮭」は「年取り魚」「正月の祝い膳」に欠かせません。鮭の頭から尾まで塩を擦り込み、その後塩抜きし軒下に逆さ吊りにして寒風で乾燥させます。



大晦日は焼いた塩引鮭が食卓にのります。そして、元旦

のお雑煮は沢山の根菜に塩引き鮭、いくらが入ります。塩引き鮭の頭は「氷頭なます」に、乾燥して固くなった身は「酒ひたし」にします。また、冠婚葬祭に必ず食卓にのるのは「のっぺ汁」です。酒は、地元のつくり酒屋の「藤ノ井」です。一月二日は、親戚一同

わが家に集まり大宴会で新しい一年が始まります。

地球交響曲

1月29日、やまゆりで映画「地球交響曲」の上映会がありました。「地球交響曲」は「地球の未来の全ての生命が健やかに、末永く生き続けることを願って」つくられたドキュメンタリー映画で、第1番から第8

まであり、今回は第1番が上映されました。その内容は、この地球がひとつの生命体であるとするなら、我々人類は、その心を担っている存在なのでは、

ということ、5人の科学者、宇宙飛行士、冒険家などの登場人物を通して語りかけるもので、その素晴らしい映像や音楽と相まって感動させられるものです。今般、その第1番がやまゆりのフィルムライブラリーに加えられましたので、機会をとらえて「あ・そうかい」でも上映会の開催を提案し、皆さんにもぜひ見ていただきたいと考えていますので、期待していただきたいと思います。

季節のうた

冬過ぎて春し来れば年月は新
たなれども人は古りゆく

・物皆は新しきよしただしくも
人は古りにしよろしかる
べし

(万葉集卷十)

この一対の歌には「歎旧」と前書きがある。つまり「ふりしにを歎く」というのである。

見方によっては前首は若者が年寄りをからかっている。

これにたいして、後首は年寄りが反論している、と読めて、ユーモラスにも感じる。

さてみなさんはどう読まれますか？

なお「ただしくも」はただし、しかし、の意。

(山本健吉著「句歌歳時記」より)

編集後記

今年も「あ・そうかい」は一月十二日の新年会で幕が開きました。出席者は40名(会員数59名) それは賑やかな会合でした。加えて皆さん、健啖かつ元気そのもの。ご同慶の至りであります。そう！この勢いそのまま、新しい一年を乗り切って参りましょう！